

## 2024「戦争も核兵器もない平和な世界を」市民の集い アピール

2022年2月24日、ロシアが一方的にウクライナに侵攻し2年が経過しました。この間、ロシアは核兵器使用の威嚇を繰り返し、原子力施設や病院、学校等への攻撃を続け、多くの犠牲と生活インフラに甚大な被害が発生しています。また、パレスチナ・ガザ地区では、3万5千人を超える市民が犠牲となり、まさに大量虐殺（ジェノサイド）であり戦争犯罪です。さらには子どもたちを中心に飢餓による死亡が多発しており、非人道的な虐殺と言わざるを得ません。

ウクライナ戦争を機に国際社会は「抑止力」を根拠に、軍備増強へと大きく舵を切り、法の支配に基づく国際秩序は崩れ始めました。陸・海・空に加え、宇宙空間やサイバー攻撃、情報戦、AI兵器の開発などによって対立が生じ、核戦争リスクも最大に高まっています。

このような状況を背景に、アメリカ地球物理学連合（AGU）は、2022年、「世界的な核戦争が始まったら、爆風で数時間のうちに約1億人が死亡し、数週間後には気温が下がり、世界の農産物に悲惨な影響が出て、推定で10～20億人が餓死に直面する可能性がある」と警告を発しています。

2021年1月、「核兵器禁止条約」が発効されました。「禁止条約」は核兵器の開発、実験、使用、使用の威嚇などを禁止した条約であり、2024年1月現在70カ国が批准しています。「核兵器のない世界」を実現させるためには、条約の効果的な運用に向けた議論への参画と締約国会議への参加、また条約の署名・批准国の一層の拡大が重要です。

そのような中、私たちは、平和な世界の実現に向け「署名活動」、「市民平和行進」、「被爆ピアノコンサート」など、草の根活動を地道に積み重ねています。そのことは、2024年4月に発足した「核兵器をなくす日本キャンペーン」と重なります。今後は「日本キャンペーン」とも連帯し、核兵器のない世界の実現に向け邁進していきます。

2025年は被爆80年です。被爆者の平均年齢は85歳を超え、今なお放射線障害に苦しんでいます。そのような状況にあっても、被爆者は「自分たちの地獄の苦しみを他の誰にも味わせたくない」と被爆の実相を語り続けています。被爆者のそのような強い意思を受け止め、本日、ここに「戦争も核兵器もない平和な世界の実現」を誓い合い、以下アピールします。

1. 私たちは、人間の尊厳を土台に、思想信条の違いを超え連帯します。
1. 私たちは、非人道的なウクライナ戦争、ガザ地区紛争へ抗議し、即終結を要請します。
1. 私たちは、日本政府に対し、核兵器禁止条約締約国会議へオブザーバー参加し、条約に署名・批准することを求めます。
1. 私たちは、被爆地ヒロシマで活動する市民として、被爆者と連帯し、地域での草の根活動を推進します。

ノーモア・ヒロシマ、ノーモア・ナガサキ、ノーモア・ヒバクシャ、ノーモア・ウォー  
青い空のもと、子どもたちの笑顔が溢れる未来をいっしょに実現させていきましょう!!

2024年5月24日  
「戦争も核兵器もない平和な世界を」市民の集い